

経営比較分析表（令和2年度決算）

兵庫県 小野市

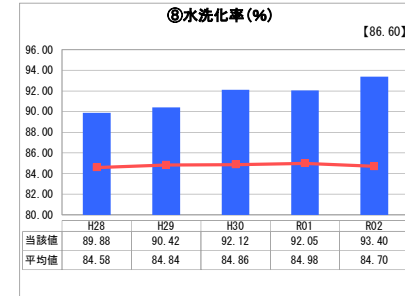
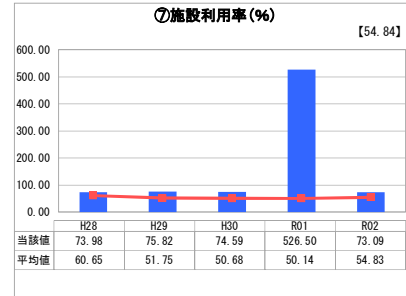
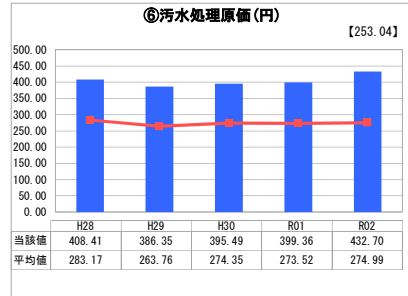
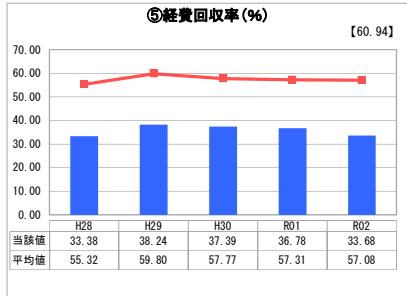
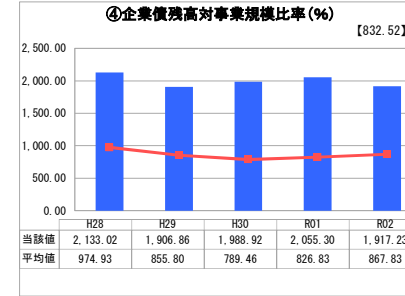
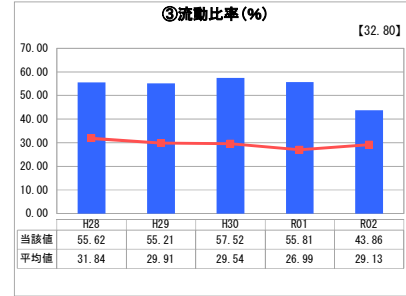
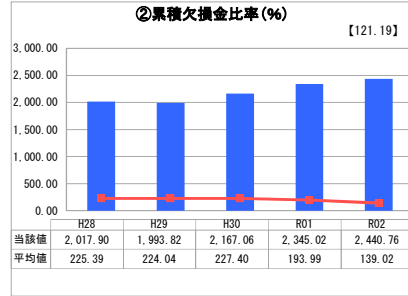
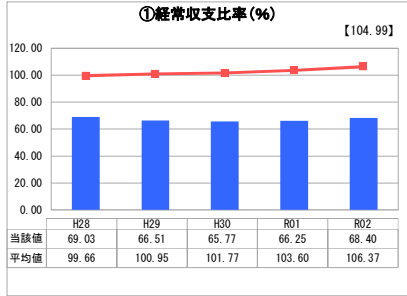
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	46.46	7.27	93.80	2,732

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,146	92.94	518.03
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,487	1.10	3,170.00

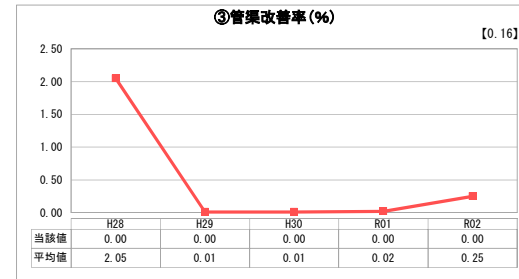
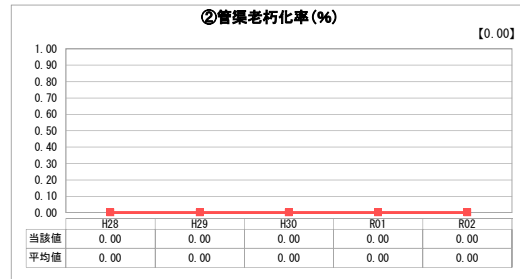
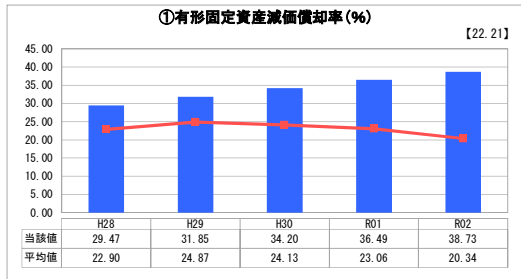
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
企業債の支払利息は縮小傾向にあるものの、施設等の老朽化により修繕費がかさみ、事業費用の削減が思ったよう進んでいない。

②累積欠損金比率
一般会計からの繰入れを行っているが、毎年純損失を計上しているため、数値は悪化している。

③流動比率
流動比率は類似団体平均値を上回っているものの、依然として低い状況である。

④企業債残高対事業規模比率
処理区域内人口が少ないが、地形的要因として5つの排水処理施設を建設したことで、使用料収益と投資額とのバランスがとれていないことが原因である。

⑤経費回収率
使用料収益が少なく、施設の維持管理費が多いためである。経費の削減等により、経営の改善を図る必要がある。

⑥汚水処理原価
R2の有収水量は増加したものの、施設の修繕費等の維持経費が増加したため、当該数値が上昇した。

⑦施設利用率
R01年度における数値について、正しくは「70.57」である。処理区域内人口が減少傾向にあるものの、類似団体平均等と比較しても、過不足なく適正規模と判断できる。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、全国平均及び類似団体平均共に上回っており、老朽化が進んでいる状態である。この要因として、将来的に公共下水への編入等を計画しており、施設の更新・改築を抑制しているためである。

全体総括

経常収支比率、累積欠損金比率とも、適正とは言えず、経費の削減を行うと共に、公共下水への編入等抜本的な対策により経営の改善を図る必要がある。上記のとおり公共下水への編入等を計画しているため、更新投資を急ぐ必要はないものの、管渠における長寿命化を含めた各種の投資について、費用対効果等を含めて総合的に判断しながら計画的に進めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。